
闘えメロス！

真・破織密苦魔王

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

闘えメロス！

【Nコード】

N2247Z

【作者名】

真・破織密苦魔王

【あらすじ】

走れメロスの2次創作。愛と誠(?)の勇者、メロスの決戦！

前編 メロスは激怒した（前書き）

メロスは強い。

前編 メロスは激怒した

メロスは歩いてシラスクの街に出ていた。妹の結婚の準備だ。ドレスやご馳走を沢山買った。

「喜

ぶかな、早く帰って見せてやろう。」

こんな

事を呟きながら空を見上げる。もう夜だ。そしてふと街の異変に気付く。

「やけに静かだ

……。 前来た時は夜でも賑やかだったのに。何かあったか？」

そして近くにいた

若者を捕まえて尋ねる。

「やけに静かだが、街に

何かあったのか？」

若者はそれには答えず、無

言で立ち去った。

「何だよ。感じの悪いやつだな…

…。」

そうして暫く歩いていると、ひとりの老人に会った。そうしてまた尋ねる。

「この街に何かあったのか？」

先程の若者のように答えなかった。そしてメロス
は老人の方を揺さぶる。すると老人は漸く口を開いた。

「王が人

を殺すのです。」

「何故そのよ

うな事を？」

老人の言葉に眉

をひそめる。

「人を信じられないと

のことで。そのおかげでたくさんの人が犠牲になっ

て一般どころか、身内までも殺してしまいました。」

メロスは激怒した。許すまじ国王、いや暴君め。必ずや

このメロスがその首を討ち取ってやる！

「そうと聞いたならこうしちゃいられない、早く城へ行かなければ。城への行き方を教えてくれ。」

「城って、何をするつもりですか！？あなたが誰かは存知ませんが、国王は敵う相手ではないです！残念ながら、我らとは格が違っ！」

「私の名はメロス。愛と誠の勇者！」

「私が止めても無駄ですね。分かりました。城までの道を教えましょう。」

そうしてメロスは暫く老人の説明を聞き、城に向かった。

老人の説明通りに行くと、そこには巨大な城があった。城門の前には、武装した兵士がいる。

まずはここからか……。」

メロスは堂々と門へ向かう。武装した兵士がメロスに気付き、持っていた薙刀を構える。

「貴様、こ

こが何処か分かっているのか？関係者以外立入禁止だぞ！」

「ふん。その事

は知っている。私の目的は、国王を倒すことだけだ！」

メロスがそう言い

放つと、たちまちメロスに黄金の闘気が灯る。そして兵士に手を翳した瞬間、

ドゴオオオオオン！

大きな爆音と光が、兵士を包み込み、兵士を倒した。

「許せ。これも必要な犠牲だ。おっと忘れてい

た。我が名はメロス。愛と誠の勇者だ！」

「言ってる事と……やっていることが……違つぞ……
…コクツ。」

最後にツツコミながらも、倒れる兵士。まず第1段階成功だ。そしてメロスは城に入つて行つた。

「それにしても、広いな……。
流石は王の城といったところか。よし、王室へ向かうとしよう。妹が待っているのだ、早くしなくては。」

こうして掛かってくる兵士を次々と倒しながら、城の中を進んでいくメロス。そして、メロスの前に1つの小隊が現れた。

「私の名は、デイト隊第2部隊隊長、
エルフィ！貴様に恨みは無いが、王様の命令により排除しに参つた。」

エルフィは他の兵士とはまるで違つ。装備が通常の兵士より軽く、白ずくめだ。そして手には青い鬨気を纏つた剣。いかにもリーダーという雰囲気を出している。

「そうか。我が名はメロス。悪に終焉を齎す、愛と誠の勇者！」

「ち

やんと言葉の意味を理解しているかは知らないが、いいだろう。それ相応の死をくれてやる！」

そう言って持っていた剣をメロスに振り下ろす。メロスは黄金の闘気を纏った手刀で対抗する。

「なかなかやるな。だがっ！」

本物の剣が手刀に押し切られた。剣はそのまま彼方まで弾き飛ばされた。

「ば、馬鹿な！こんな事が……こんな事が！」

「相手が悪かったな。この、愛と誠の力には敵わぬさ。もう終わりだ。」

そう言うと、メロスは手に闘気を集中させる。そして闘気を長い剣状にすると、エルフィに向かって歩を進める。

「や、やめろおおおお！」

スパン！

静かな切断音が響きわたり、エルフィは倒れた。周りにいた兵士達も、同時に切られた。

「ふう」

「あとのくらいだろうか……。」

再び歩き出す。そしてあれから兵士に会わないまま、1つの扉に辿り着いた。おそらくここが王室だろう。

メロスは
「よし、入るか。待っている、

暴君王め！」

メロスは豪快に扉を開けた。

前編 メロスは激怒した（後書き）

感想待ってます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2247z/>

闘えメロス！

2011年12月8日00時56分発行